

## 平成 20 年度 第三回光赤外専門委員会 議事録

日時： 2009 年 3 月 9 日(月) 13:00~16:15  
場所： 国立天文台三鷹 南研究棟 大会議室  
(京都大学と TV 接続)  
参加者： 有本信雄、市川伸一、市川隆、岩室史英(京大より TV 参加)、川端弘治、神田展行、  
(敬称略) 小宮山裕、竹田洋一、谷口義明、富田晃彦、松原英雄、水本好彦  
(Ex-officio): 安藤裕康、郷田直輝、桜井隆、野口邦男、吉田道利  
欠席： 臼田知史、河北秀世、小林尚人、宮崎聡  
資料： 0: 平成 20 年度第 3 回国立天文台光赤外専門委員会議事次第  
1: 国立天文台光赤外専門委員会 名簿  
2: JASMINE 計画シリーズの進捗報告  
3: 2008 年度すばるユーザーズミーティング  
4: 2008 年度すばる小委員会議題の概要  
5: 第 3 回すばる小委員会議事録  
6: =光赤外専門委員会への提言=2020 年へのすばるの戦略 “天・地・人”  
7: 第一回光赤外専門委員会議事録  
8: 平成 21 年岡山プログラム小委員会

### ● はじめに

水本委員長より、本日の議事、配布資料の確認を行った。

### ● JASMINE 計画シリーズの進捗状況報告

資料 2 に基づき郷田 JASMINE プロジェクト長より JASMINE プロジェクトの報告がなされた。主な内容としては、以下があげられる。

- ・ Nano-JASMINE と JASMINE の間を橋渡しする、小型 JASMINE 計画(2015 年打ち上げ目標、口径 30cm、バルジの部分サーベイ)の検討が開始され、宇宙科学研究本部宇宙理学委員会で WG 設置が承認された。
- ・ Nano-JASMINE 計画は pre-GAIA として ESA から期待されている。

### 【主な議論】

- ・ 小型 JASMINE の研究会はやらないのか? → 今後開催したいと考えている。
- ・ 小型 JASMINE の地上望遠鏡との連携は? → 日豪など名前が挙がっているが、2017 年の話なのでこれから一緒に考えて行きたい。 → FMOS とのマッチングがよい。是非すばるで観測できる領域を。

### ● すばるユーザーズミーティングについて

有本委員より資料 3 に基づいて、すばるユーザーズミーティングの概要が報告された。WF MOS サイエンスセッション、WF MOS ビジネスセッション、すばるサイエンスセッション、すばるビジネスセッションに大

別されていたが内容は多岐に渡っている。詳しい内容はすばるユーザーズミーティング報告を参照されたい。WF MOS については総論としてポジティブに進めていくということとなった。

#### 【主な議論】

- だんだんと WF MOS に対する日本の負担が大きくなってきている印象である。交渉が重要である。 → WF MOS が壊れたときのメンテナンスはすばる持ちと聞いた。これは大変であるので考慮すべきである。 → 交渉のアイテムである。どこまで引き受けるかはちゃんと決める必要がある。
- WF MOS がすばるに付くことによる共同利用へのインパクトはどう考えるか？ → Gemini との時間交換だけでは不十分である。Keck を含めた3者で“ハワイ島全体”として共同利用を捉えることができればコミュニティは納得すると思われる。 → TMT を見据えた協力で Keck を引き込むしかない。
- すばるはサーベイに向いている望遠鏡であることは自ら証明している。サーベイ中心に進むことはよいとは思いますが、外圧に負けるのではなく若手が国際的にリードしていけるのであればよい。 → 我々の決意が重要。世界のためのサーベイ望遠鏡にならないように。
- ユーザーズミーティングの場では、今後望遠鏡がちゃんと動かなくなる懸念があるという報告がなされた。これは大変な驚きであった。 → あと10年間問題なく動かすためにお金・体制を十分考えていかななくてはならない。ユーザーの理解も必要。 → すばるからは情報が出てきていないという印象である。いつも「うまく行っている」という話しか聞こえてこない。 → すばる小委員会の担当すべきところである。総合的にすばる小委員会とハワイ観測所の連携をとっていくべきである。 → (望遠鏡を維持する) スタッフが少ないという印象である。Decommission も考えていく必要がある。 → HSC も WF MOS も望遠鏡がちゃんと動くことが前提。国際的信用問題にも関わるので、きちんと検討委員会を作って望遠鏡の動作を確認していくべきだ。 → 新しい観測装置では望遠鏡のコストを下げるばかり考えているが、望遠鏡がちゃんと動かなくなるのではないかと心配になってきた。
- データアーカイブは重要だがコミュニティとして必要か？ → 必要。 → ハワイ観測所でちゃんとアーカイブしていくという意思を示してほしい。 → ハワイ観測所で勝手にやっているという印象である。考えをインプットしていかないとまずいと思った。 → SMOKA も含めていいものにして欲しい。

#### ● すばる小委員会の議題について

有本委員より資料4に基づいて、今年度のすばる小委員会の議題の概要が報告された。主な内容としては、WF MOS に関する Gemini との交渉、すばる戦略枠の開始時期に関する議論、すばるの将来像に関する議論である。議論は「2009年度活動目標について」にて行なった。

#### ● 岡山プログラム小委員会について

吉田所長より資料8に基づいて、平成21～23年度の委員が紹介された。特に異論は出ず、承認することとなった。すばるプログラム小委員会は、すばる小委員会で選考し、次回の光赤外専門委員会で承認をとる予定。

#### ● 2009年度活動目標について

水本委員長の議事進行の下、資料6で挙げられた提言を参照しつつ、2009年度の光赤外専門委員会の活動目標について議論を行った。議論が深まり、提言すべてを実現に移すのは難しいという理解を共有し、200

9年度は以下の点について重点的に検討し具体的な提言をまとめていくという基本方針が合意された。

- ・ 今後10年以上正常に動作し続けるためのすばる望遠鏡の健康診断
- ・ 装置開発までを含めた広い意味での共同利用のあり方
- ・ 人材育成をかねた、国際協力・JAXAとの協力

今後、水本委員長の指名により、各委員が個別テーマについて検討を進めていくことになった。

#### 【主な議論】

- ・ 日本ではSPICAしか考えられていないが、世界にはJWSTがある。JWSTへの参画は考えなくてよいか？  
→ SPICAはJWSTより完成が遅いが、得意な波長が異なる。Herschelとも相補的。→ 地上観測装置との連携は？ → 色々ある。→ ALMAの短波長側という意味でSPICAは必要。→ 本委員会ではJWSTに参画するかそれともSPICAができるまで待つかを議論すべきでは？ → 今から参加は時間を買うということしかないのでは？ → 人を送ってその組織にもぐりこませる(そこにお金をつける)というやり方もあるのでは？ → PDを送るというようなことはやりたい。
- ・ 人を育てながらグループを作っていく戦略も考えなくてはならない。新しい人たちをどうやって取り込んでいくかという観点が必要。予算や大学との連携。
- ・ JAXAは(太陽・VSOPなどとは違って)SPICAについてはNAOJの関与を期待していないのか？ → NIRについてNAOJ中心に検討してもらっているが、まだ詰まっていない。
- ・ すばる小委員会としては提言(資料6)がどう実現していくか追跡する必要がある。→ 専門委員会委員長が台長に言えば台長はその発言を実現に移すというシステムになっている。→ お金とマンパワーの見積もりがなく提言だけ並べるのでは夢を語っているようだ。お金とマンパワー・実行体制まで検討すると具体的になるのでは？ → すばる小委員会ではどこまでやればよいか分からなかった。→ 太陽ヘリオグラフでは具体的にやった。同じことは光赤外でも言える。
- ・ すばるの健康診断を行うべきでないか？ → Gen2開発など見ていると意思疎通がうまく行っていないように見える。
- ・ 光赤外ですばるとTMTとを同時にできるのか、と外部からは見える。共存できるような描像を持たないとならない。→ 光赤外内部の対応が遅れている。内部で話し合いながらベクトルをそろえていくようにすることを考えて行きたい。
- ・ 装置開発について、すばるに取り付けるようにすべきか、岡山でよいか？ → TMTの装置開発が中心になるべき。そのおこぼれのものが大学にメリットをもたらす形が一番良い。→ 全部やるのは無理。最大のところに最大の投資をすべき。→ 今まではなんとなくやってきた。これからは運用・サイエンスまで含めて考えていかないとならない。→ 重力波ではサイエンスがでるところに大学は関与する。光赤外はそうっていないのは驚きだ。→ 物理と天文は違う。天文は中小望遠鏡でできることがある。→ 大学では物理と同じ土俵に上げられる。サイエンティフィックに貢献していることが必要である。
- ・ 共同利用の一環として装置開発を任せるといったやり方もある。そのような検討会があっても良い。→ 仕切っていくのは難しい。ボトムアップも同時にやっていくべきである。→ X線分野ではうまく機能している。見習っていくべき。→ 天文台内部にしっかりした組織を作って受け皿となって欲しい。
- ・ 国際協力・JAXAとの協力について、人材育成をかねて、どう進めていくか、どういう組織が必要か考えていく必要がある。→ サイエンスをやることも重要。サイエンスと両輪でないとならない。→ HST, Spitzerなどでは大プロジェクトにはお金がついてくる。こういうものがあると良いのでは？ → 今のすばるでは難しい。
- ・ 光赤外全体としての組織のあり方を考えるのがこの委員会の役割。まとまった意見を出して欲しい。→ その意見を天文台として実現させるのが光赤外研究部であるべきだ。→ すぐに実行に移せるような提

言をまとめあげるのを来年度の目標としたい。

- ・ 光赤外としてスペースにどう関わっていくかは次回に提案したい。

● アクション・アイテム

議事録確認後、水本委員長より各委員に次回委員会までの宿題が出される。

● 次回会合

日時：7月上旬にて調整を行う。